



天上はるかに

秋田高校東京同窓会会報

2017年5月
新緑号

秋田高校東京同窓会

〒106-0032
東京都港区六本木 5-16-5
インベリアル六本木 1001
鎌田会計事務所内

TEL 03-5545-7775
FAX 03-5545-0087

http://www.shuko-ob.net/

2017年7月1日(土)

秋田高校東京同窓会 総会・懇親会

首都圏在住の年月を重ねてゆく。長く住み慣れた場所であれば当然愛着心も強くなる。それでもふるさとへの思いはまったく別物として確固たる位置を占める。考えてみれば面白いものである。

母校という存在をちょっと考えてみる。小学校、中学校、高校、そして大学。特別な場合を除き義務教育の小・中学校は生まれた市町村内にあり、自らの意思に関係なく入る学校が決まる。だが高校は少し違う。心ならずもの人もいるのだろうが、多くの人にとっては初めて自らの意思で選び、試験という関門を経て入れるところである。大学もしかりではあるが、初めて選び入った・・・という観点でいうならば、高校は母校と呼べる中でも別物といえるように思えるのだが、どうだろう・・・？

さて、今年も総会・懇親会の日がやってきます。どんな思いで秋高を選び入ったのか等々、同窓の皆さんと語り合ってみるのはいかがでしょうか。

多くの皆様のご参加を、心よりお待ちしております。

講演者

進藤 孝生 氏
S43年卒



新日鐵住金 代表取締役社長
日本鉄鋼連盟 会長
世界鉄鋼協会 副会長

昭和48年一橋大学経済学部卒業。同年新日本製鐵に入社。同社勤務の傍ら1982年にハーバード大学ハーバード・ビジネス・スクール卒業。新日本製鐵入社後は、経営企画部門や総務部門を長く歩み、同社室蘭製鐵所、八幡製鐵所、名古屋製鐵所勤務などを経て、広畑製鐵所総務部長、本社経営企画部長、本社総務部長を歴任。2009年には代表取締役副社長に就任し、新日本製鐵と住友金属工業の合併により新日鐵住金が誕生した後は、新日鐵住金小倉製鐵所、同八幡製鐵所、同堺製鐵所、同和歌山製鐵所などの製鐵所の組織統合を担当した。

2014年4月新日鐵住金代表取締役社長に就任。
2016年5月に日本鉄鋼連盟会長に就任。

※参考：Wikipedia

開催要項

- 会場 …………… ハイアットリージェンシー東京 >>>
- 受付 …………… 16:00 ~
- 総会・事業報告 …… 16:30 ~
- 講演(進藤孝生氏) …… 17:00 ~ 17:50
- 懇親会 …………… 18:00 ~

◆ 当日会費 ・8,500円
※ 同封の振込用紙にての前振込の場合は 8,000円です。

JR新宿駅西口
徒歩約9分
都営大江戸線
都庁前駅A7出口
C4通路徒歩1分
丸ノ内線
西新宿駅徒歩4分



東京都新宿区西新宿 2-7-2 TEL 03-3348-1234

橋本五郎の AKITA 元気トーク



秋田高校東京同窓会 会長
橋本 五郎

「ふるさと納税」の精神とは？

「ふるさと納税」に対する豪華返礼品競争が過熱し、とうとう総務省が通知を出しました。返礼品の調達費用は納税額の3割以下にすること、宝飾品や家具、楽器、商品券など高額なものは避けるよう求めています。自分が生まれ育ったふるさとに恩返ししようという純粋な気持ちで始まったはずの「ふるさと納税」ですが、寄付の規模が飛躍的に大きくなり、本来の性格はすっかり様変わりしてしまいました。

寄付総額がもっとも多かったのが宮崎県都城市です。何と42億3100万円です。一方、返礼品は梱包と送料を加えると寄付の7~8割に上りました。返礼品には、小型無人機ドローン(東京・国立市)や宮崎牛サーロインブロック1キロ2個(都城市)など豪華さを競うようになってしまいました。寄付すれば確定申告で控除がありますから、寄付する人が多い都市部では当然ながら税金が減ります。東京23区など、減収は129億円と試算されています。

都市部からは反発が強くなりますが、それ以上に問題があるのは、ふるさとを純粋に思う気持ちはどこかへ行って、返礼品の良し悪しで寄付の額がきまってしまったことです。そして市町村の職員が寄付集めに奔走していることです。市町村にとってふるさと納税は一石二鳥です。財政は潤うし、地元の特産品を宣伝できます。しかし、行政は何のためにあるかを考えなければなりません。行政はビジネスではないのです。

大雨が降った。台風が来た。酷暑になった。そのとき、行政の担当者は、まず住民のことを考えるべきです。独り暮らしのお年寄りが心細い思いをしていないか。心配で眠りに就くことができないのではないか。「大丈夫だよ」と電話しようか。30年も独り暮らしを続けた母を思うにつけて、そうあってほしいと願うのです。今こそ、ふるさとへの「無償の愛」を取り戻したいと思うのです。

平成29年 大学生との交流会・新春賀詞交換会 報告

◆ 平成29年大学生との交流会



◆ 平成29年新春賀詞交換会



平成29年1月28日/於：アルカディア市ヶ谷



寄稿

川村 勇太 H27卒

秋高を卒業してもうすぐ2年になろうかという今年の1月末、初めて秋高のOBとして、東京同窓会に参加させていただいた。招待のハガキを見たときは、同期の友達と久々に会う機会になる、くらいに認識しかなかったが、実際に参加してみて、予想をはるかに超える多くの出会いに恵まれた。

まず、同窓会に先立って行われた、現役大学生を対象とする就職セミナーでは、民間企業や官庁に内定を受けた年の近い先輩の体験談や、実務に携わっている先輩方の話をうかがうことができた。様々な業界でご活躍なさっている先輩方のお話を通して、自分にとって遠い将来の話だと思っていた就職後のイメージをつかむことができ、非常に有意義なものになったと思う。

賀詞交換会では、諸先輩方とお酒を交えながら様々な話をする事ができた。私たち、秋田から上京した大学生にとって、日本の中心である東京で、企業や組織のトップとして社会を牽引する大先輩方とかかわる機会はとても貴重だった。しかも、秋高の同窓生として、まるで親戚や家族の集まりのようなあたたかな雰囲気や私たちが受け入れてくださった。その中で、なかなか聞けない業界の事情から高校時代の思い出まで、いろいろな話をうかがうことができ、私たちにとって、本当に得難い時間となった。

ただ、ひとつだけ悔いも残った。先輩方から与えてもらうばかりで、自分から発信することが少なかった点である。「おのれを修めて世のため尽くす」。秋高生ならだれでも知っているフレーズだが、その意味をもう一度見つめ直し、自分の教養を深め、先輩たちにも負けたくないような人間になっていきたい。

金澤 尚毅 H27卒

今回、初めて「大学生との交流会」と「新春賀詞交歓会」といった、同窓会行事に参加させて頂きました。これまで秋田高校のOB・OGの方々とお話しさせて頂く機会はありませんでしたので、少し緊張しましたが、とても充実した時間を過ごさせて頂きました。

「大学生との交流会」では、就職活動を終えた方々のお話やキャリアプランナーの方のお話を伺い、自分の中でぼんやりとしていた就職活動のイメージを明確にすることができました。また、普段の学生生活の重要性を再認識し、就職する上で自己分析をすることの本当の意味での大切さについても気づくことができたと思います。

「新春賀詞交歓会」では、OB・OGの皆様が温かく迎えてくださり、多方面で活躍されている方々のお話を伺うことができ、大変貴重な経験となりました。

「交流会」と「賀詞交歓会」を終えて、私は、OB・OGの皆様全員が強い信念をもって行動されていると思います。交流会や賀詞交歓会でお話を伺う中で、OB・OGの方々、自分自身を見つめ直し、自分がどうしたいのかを決め、強い信念を持ち、責任をもって行動するという自主自律の精神を体現されているように感じられました。

私自身は今、強い信念を持って行動しているとは言えず、ふらふらとした、自主自律にほど遠い状態にあります。大学生活も残り半分となり、就職などの進路について本格的に考える時期であるこの節目に、自分自身を見つめ直し、自主性をもって行動するよう努めていきたいと思えます。

齋藤 幹 H27卒

先日の秋田高校東京同窓会賀詞交歓会に参加させていただきました。そこでは、東京同窓会の様々な世代からなる縦の繋がりの強さとともに、秋田高校OBOGの先輩方の秋田を想う気持ちの強さをうかがい知ることができました。

この会では秋田高校を卒業した後、多種多様なキャリアを経験した先輩方からお話をうかがう機会がございました。省庁や金融、インフラ系や広告業界など多くの業界で秋高出身の先輩方が活躍されており、まもなく就職活動を控えている私たち大学生にとって大変実りのあるお話を聞かせていただくことができました。また、食事会では現場の前線で活躍されている方、企業の重役を担う方など多くの方々との交流を深めることができました。様々な業界、職種の方とお話させていただきましたが、皆様共通してお持ちになっていたのは秋田に対する熱い想いでした。秋田高校を出た者として、郷土秋田を支えたい、発展させたいという使命感を覚えていらっしゃるよに感じました。私も一人の秋田高校OBとして、どのように秋田の支えになれるものかと深く思慮を巡らせた次第です。

大学生であるこの時期に秋田高校東京同窓会に参加させていただいたことは、私にとって大変意義のあるものとなりました。

栗山 千採子 H26卒

この度は秋高東京同窓会の交流会、祝賀交歓会という貴重なお時間に参加させていただきましてありがとうございます。今回秋田から参加させていただき、たくさんの先輩方とお話できる機会を通して秋田高校の縦のつながりの強さを改めて感じました。

交流会ではこれから社会人になる先輩方や既に社会人として活躍している先輩方から就職活動や社会に出てからの話を聞くことができました。私自身、秋田で学生生活を送っており東京で学生生活を送る方々と就職に対する感じ方の違いを実感し焦りがあったので今回あきた総研の須田紘彬さんはじめ多くの先輩方からこれからの就職活動においての大切なお話をいただきました大変参考になりました。

講演ではプロ・ダンサーとして活躍している松野葵さんのお話を伺いました。ご自身の経歴をお話していただき、どんな状況でも自身の夢を追い続けていらっしゃる松野さんの姿勢に感銘を受けました。

最後になりますが、今回秋田からの参加を温かくお迎えいただき、多くの先輩方との交流の機会をいただけたことを大変嬉しく思います。とても有意義な時間でたくさんのご指導をいただきましたことに、心から感謝申し上げます。今後も参加させていただきたいと考えておりますのでどうぞよろしくお願ひいたします。

吉田 友花 H26卒

就活セミナーでは須田さんから、これから本格化する就職活動における準備や対策についてお話いただきました。企業の採用に関係するお仕事をされていた須田さんだからこその就活の進め方やすべきことを教えていただき、非常に学ぶことの多い時間でした。また、今年就活を終えた大学生の先輩方から、ご自身の経験をお話ししていただき、より具体的にイメージすることができました。その後、座談会形式で大学生から社会人の方まで、様々な経験、仕事をされている先輩方とお話しする機会もあり、自分の興味のある業界や詳しく知らなかった業界の理解が深まりました。そして、今回お話を伺った先輩はOB訪問も引き受けてくださり、相談会以降もお世話になっています。

さらに、賀詞交換会では橋本五郎さんをはじめ、多くの先輩方が参加されておりとても和やかな会でした。様々な先輩方との交流を楽しむことができ、参加してよかったと思っています。

今回の就活相談会、賀詞交換会を通して改めて秋高の歴史と絆を感じました。たくさん先輩方が私たちの相談に乗ってくださる「秋高」のつながりの強さと深さは他にはないと思います。また、卒業後も多くの先輩方が集い、後輩をあたかく迎え入れてくださる雰囲気は、長い歴史と一人一人の母校へ対する思いが熱いからこそだと感じました。

私は初めて参加しましたが、就活に関する学びを得るとともに、秋高の良さを再認識する会でした。来年以降はさらに多くの先輩・同期・後輩が参加し今年以上に活気あふれる会になることを期待しています。

このような機会をいただき、幹事長の鎌田様をはじめ皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

「平成29年 大学生との交流会・新春賀詞交換会」に寄せて

榊原 互 H12卒

秋田高校を卒業後、大学・研修を経て興味の深かった精神科へ進み、とりわけ精神科救急における短期集中治療に注力している病院へ就職しました。日々急性期医療の現場で経験を積むに従い却って職場でのメンタルヘルスや予防医学への関心も高まり、精神科医として、また産業医として勤務し現在に至っております。

以前から秋田高校東京同窓会の活動は聞き及んでおり、この度同級の三浦祐介君から誘いを受け初めて参加させて頂くこととなりました。

当日は仕事の都合上途中参加となり若干緊張しながら臨んだものの、先輩方に声をかけていただく中で母校を同じくする者の連帯感から徐々にリラックスして楽しむことができ幸いでした。

各界の第一線で活躍されている諸先輩方のお話には説得力があり、大いに刺激を頂いたと同時に、自身もこうありたいと身の引き締まる思いがしました。

また、これから就職を迎える学生の皆さんとの交流においては、各分野の興味深い話を聞いたことも収穫となりました。

上京してからというもの忙しさにかまけて故郷とは疎遠になっていた私にとって意義深い会となり、ご一緒させて頂いた先輩・後輩の皆様へ感謝しております。

今後ますます参加者が増え、同窓会として益々発展していくことを願ってやみません。

佐々木 千尋 H8卒

今回、初めて同窓会に出席したことで色々記憶が甦り、秋田高校には二つの大きな刺激を与えてもらったこと、その結果今の自分があることを改めて振り返る契機となった。

私は親が転勤族で幼い頃から定期的に超越しと転校を繰り返しており、秋田高校には二年生の春に編入した。編入試験の後、校内を先生に案内して頂き、一年目に在籍した隣の高校がいわゆる普通の学校だったため、秋田高校の美しい建物と自由闊達な私服の生徒たちの姿に仰天した。それまで与えられたルールを遵守することが第一だった私は、秋田高校の「自主自律」の精神に触れたことで、自分のことは自分で責任を以て決めようという意識が急激に芽生えた。試行錯誤であったが、許容してくれた友人達には今でも感謝している。ここで、自分の主は己だという意識が生まれ、今に至るまで続いている。

もうひとつは部活だ。バドミントン部で県大会優勝とインターハイ出場を経験することが出来た。最初の新人戦での優勝はほとんど幸運だったが、優勝後の一年で実力が驚くほど伸びたのだ。自信と自覚と重圧が私を育ててくれたのだろう。人間は環境に強く影響されることを実感し、社会に出た後もできるだけ良い環境に自分を置くように努めている。今回の同窓会を契機に今も秋高バド部が素晴らしい成績を残していることを知り、とても嬉しく感じた。

東京同窓会の皆様には、大先輩方にも温かく迎え入れて頂き、郷里を持たない転勤族の私には新鮮な感動だった。東京で長く集いを続けてこられた諸先輩方の並々ならぬ努力の恩恵と深く感謝し、私も秋高OGとして何かしら貢献できるような努めたいと思う。

工藤 亨 S58卒

今年で52歳になりました。19歳より、上京。大学、社会人生活を東京近郊で過ごし、現在に至っています。秋田高校同窓会、秋田高校東京同窓会は、私の人生の立ち位置、立ち戻る位置を確認させてくれる、そんな貴重な場だと思っています。

さて、今年も「新春賀詞交換会」に参加させて頂きました。毎回感じるのですが、普通は、初対面の方と遭遇したら、緊張もし、相手への警戒心がまず芽生えてしまうのではないかと思います。私も人見知りをする方なので、特にそうです。東北人、秋田県人の気質としてもそうではないでしょうか。ましてや、全国から、今や全世界から様々な価値観を持った人々が集まる東京に住んでいると、特にその気質が強くてくることでしょう。しかし、不思議なことに、同じ故郷、同じ高校を卒業した者同士が集まると、不思議とその壁が数秒で取り払われてしまう、そんな感覚を毎回感じます。本当に不思議です。もちろん、会に伺った直後は、一定の緊張感もありますし、今回も自分は受け入れてもらえるのだろうかという不安も毎回感じます。でも心配御無用。それでいいのです。秋田県人のよいところは、県外で会った場合は特に、同郷、同窓を大事にするところだと思います。同郷、同窓とわかった瞬間、あなたは仲間です。無条件で仲間です。言葉には出しませんが、努めてみんなそう接してくれています。次回もまたぜひ秋田高校東京同窓会に御参加ください、そして、まだ参加されていない在京秋田高校卒業生をお誘い合わせの上、御参加ください。そこにあなたの東京での社会生活を和やかにしてくれる何かがあると思います。皆様の御参加を心よりお待ち申し上げます。

西岡 清一郎 S43卒

秋田高校を卒業して49年目になりましたが、今回初めて総会と懇親会に参加させていただきました。秋田高校で同級生だった銭谷さん、菅野さんから、秋田高校東京同窓会のご様子は伺っておりましたし、ご案内もいただいていたのですが、仕事柄地方への転勤もあり、出席の機会を失っていました。

いつもテレビでお顔を拝見している橋本会長の楽しかつ洒落なお話と、わざわざ秋田からご出席された町田同窓会長からの現在の秋田の事情と再生に向けての課題のお話、そして出席された幅広い世代の皆さんのそれぞれの近況報告を伺いながら、私にとって忘れられない思い出である秋田高校での3年間、そして生まれ育った郷土秋田のことを懐かしく思い起こしました。

私は、昭和24年、当時秋田で弁護士をしていた母の長男として、秋田市中長町(現中通3丁目)で生まれ、秋田高校卒業までの間を秋田で過ごしました。卒業後は、東京で大学生活を過ごし、その後は、40年近く、裁判官として全国各地の裁判所に勤務しました。母は、生前、私と秋田と一緒に弁護士の仕事をすることを望んでいました。結果的には母の期待には沿えませんでした。それでも秋田は自分の出身地であり、懐かしい故郷です。自分が今あるのは、秋田高校での3年間が私という人間の土台になっていると思っていますし、秋田高校時代の友人達とは、今でも長い付き合いをさせていただいています。これからも同窓の皆様と世代を超えて語り合える、このような機会を大切にしたいと思っています。どうか、今後ともよろしく願いいたします。

小泉 忠一 S35卒

久しぶりの同窓会参加でした。今回講演された松野葵さんは、社交ダンスのプロダンサーという事で、一緒に社交ダンスをしてくれる人を探していたようでした。以前の同窓会で私が遊びで社交ダンスをしているとの報告を幹事長の鎌田さんが思い出してくれたようで、鎌田さんから講演中に松野さんと踊って戴きたいとの依頼がありました。ほかに誰かいいよという問いかけをしました。誰もいらっしゃらないとのこと、自信はありませんでしたが喜んでお相手をさせていただきました。さすがプロのダンサーで、至らない私をうまくリードしてくれました。何とか無事デモンストレーションを行うことが出来ました。わずか1分少々でしたが忘れられない思い出になりました。

さて私事です。高校時代は剣道に熱中し、当時の指導者、岩谷文雄先生、の厳しいご指導の下、熊本で開催された全国大会にも何とか出場いたしました。高校卒業後、秋田大学鉱山学部機械工学科を卒業。物作りが何より好きで生産技術の仕事に携わり、機械の設計製作を行い、その関係で米国カルフォルニア州やジョージア州に志向し約10年間滞在しました。帰国後長野県佐久市に住まい、その後現在の千葉県市川市に移ってきました。

年を取ったものでもうじき75歳、喜寿まであと一年です。会社を定年退職後10年間、環境管理審査員として全国北海道から沖縄まで飛び回り、各会社のマネジメントシステムの審査をしてまいりました。75歳ですべての仕事から離れ、一時放心状態になりましたが、気を取り直し、現在は一週間の予定をカレンダーに書き込み、予定のない時は近くのジムに行き、水泳で800M~1KM泳いだ後、サウナ風呂に入り汗を流し帰宅。冷えたビールを飲むという毎日を過ごしております。

ところで、今回の賀詞交換会には剣道部の連中が参加されていないようでしたので、誠に残念でしたが次回にはだれか参加してくれることを期待します。

同期会だより

◆ 卒業60周年 傘寿を祝う、三一會



秋高31会・卒業60周年 & 傘寿を祝う会 2016年11月1日 於 協働大町ビル

“「サンイチ」に因み「1」が三つ揃う日に開かれるはず”との予告通り、2016年11月1日(火)、三一會が秋田市の大町ビルで開催された。卒業60周年と傘寿到達という大きな節目を祝う趣旨で、2013年11月の「喜寿の祝い」以来3年ぶりの会合である。出席者は46人—当初48人の予定であったが都合により2人欠席—男女内訳では女8人、男38人、うち県外からの参加者6人。

顔ぶれが揃ったところで個室で記念撮影。写真屋さんの「眼鏡が光るので顔を少し下向きに」とのアドバイス、これに対して「そうすると頭の方が光ってしまう」という訴えあり、哄笑、爆笑のうちにシャッターが切られた。

午後2時40分、メイン会場「鳥海の間」で高橋裕子さんの司会・進行のもと式次第が始まった。松野幹事長の開会の辞、物故者慰霊の黙祷、校歌1番から5番までのフル斉唱に次いで、幹事長から、町田会長の余儀なき出席不能について事情説明

しまい、午後5時丁度佐々木行(元籠球部)から幹事団への謝辞が述べられて中締めとなる。

このあと、会場を同じビルの2階「スパイラル」に移して二次会カラオケへと続いて行く。参加者24人が、各人各様に美声、調子はずれ、デュエットと多彩に唄い、かつ踊ることおよそ2時間30分。時刻は既に8時となり、飲を尽くし、旧交を温めて過ごした数時間に名残を惜しみながら散会。

尚、「今回の集まりをもって三一會は解散か」という懸念について、幹事長から「これはピリオドに非ず、カンマに過ぎない」、すなわち正式な会合は本日を区切りとするが、三一會そのものは存続、今後も適宜に会合を開く予定との意向が示され、全員が賛同かつ安堵。卒業満60年の歳月を振り返り、「傘寿」の先に控えている八十歳代という未来の時間に向かって、更なる心の若さを保って進んで行こうという思いを新たにした意義深い集いであった。

佐々木 行(すすむ) S31卒

と挨拶代読がなされ、清水氏(元野球部主将)の万歳三唱付きの威勢の良い乾杯音頭で開宴。

それぞれのテーブルに置いて互いに久闊を除している間合いに、幹事団よりの諸報告とともに「田村鐵男先生がこの7月にご逝去」との知らせが伝えられ改めて故先生のご冥福を祈念する。また、用意された資料の「学校概要」、「同窓会のしおり」、「校歌のいわれ」等に加え、熊谷氏提供の旧校舍全景写真、3学年時の各クラス毎の集合写真なども配られ、皆の話柄を広げた。宴半ばには、平沢氏(元山岳部)の山登りを詠った詩吟が披露され、一層賑やかに盛り上がる。

とこうするうち、歓談未だ尽きざるに予定の150分が経過して

◆ S42会きりたんぽ会開催 高橋 和正 S42卒

開催日：2017年2月25日(土)



昨年、3年ぶりに再開したきりたんぽ会に今年も大勢(23名)の方々が参加して頂けました。このきりたんぽ会は元々S42会のメンバーが主体の会ですが、折角メジャーになったこの郷土料理を多くの方に味わって頂こうと、週末の飲食店を借り切って小職の知り合い等にも声かけて7年前にスタートしました。

初めの新橋にある家庭料理「OWL」では厨房を借りての振る舞いでしたが、渋谷井の頭線近くの居酒屋「魔吞汝」に移ってからはレシピを渡し作って貰いましたがさすが料理のプロの味は皆さんに充分満足をして頂いたようです。

きりたんぽ、比内地鶏(同ガラ)、比内地鶏のたれは秋田からの直送で、後は東京で調達し根っこ付きのせりも手に入りました。

結局、飲み放題付き4時間弱の宴会は大変な盛り上がりでやはり美味しい料理を味わえば自ずと心も弾む様です。お陰でマスターからは時間が長過ぎると叱られました。満足度のいいイベントだったと一人納得した次第です。

来年は皆さんも参加如何ですか？

S31(三一会), S42会, S43(虎ノ門会)

◆ 昭和43年卒の在京組が集まった

菅野 庄一 S43卒



昭和43年卒の在京組が集まった。虎ノ門界隈に職場がある(あった)面々なので、「虎ノ門会」と称して、年1、2回集まっては近況報告と情報交換などを行っている。

昨年11月は、菅野 庄一(3D・弁護士)の職場に、酒や肴を持ち寄った。参加者を紹介すると、左手前から時計回りに、菅野、柴田 司(3A)元全日本空輸常務、銭谷 眞美(3D)東京国立博物館長、播摩 吉男(3A)公益社団法人日本保安用品協会理事、佐野 章(3C)元アラビア石油専務、富岡 悟(3B)元環境省自然環境保護局長、進藤 孝生(3B)新日鐵住金社長、西岡 清一郎(3D)前広島高等裁判所長官、

畠山 道雄(3A)元三井生命専務、石川 正幸(3H)元特許庁審判官、石田 和夫(3G)三軒茶屋第一病院副院長、小柳 清光(3H)信州大学医学部特任教授、佐藤 元英(3D)中央大学文学部教授。

こうして肩書きを並べると、なかなか威勢がいいが、話題の大半は「健康」。お互い歳を取ったものである。石田は「長生きをしたけりゃ、肉を食え。」と講釈していた。

金田 勝年(3I)法務大臣、も常連の一人だが、この日は欠席した。

佐藤は、この2月、「経済制裁と戦争決断」(日本経済評論社)を上梓した。時宜を得た力作だと思う。

◆ ご報告

けやき会・秋高連

◆ けやき会

けやき会は秋田市東京事務所を事務局に、秋田市にある高校の首都圏同窓会(現在8校＝秋高、中央、南高、明桜、金農、北高、秋工、秋商)と新屋郷土会によって構成されています。

会員相互の親睦を図り、秋田市勢の発展に貢献することを目的に、秋田市との緊密な連携の下に活動しています。

例年11月に秋田市長をお迎えして開催される秋田市とけやき会会員並びに関連在京企業・団体との交流・親睦を目的とする“在京秋田市政情報交換会”をメインイベントに、浅草竿燈祭りの支援、ゴルフコンペ、高尾山ハイキング、年度末懇親会といった年間行事を行っています。

昨年度は定例の活動の他、秋田市役所新

庁舎竣工に合わせ、6月に秋田市長を表敬訪問、記念植樹等を行っています。

けやき会へは当会から伊藤清信(S37卒)と武内暁(S42卒)の2名が運営委員として協力しています。



平成28年度 在京秋田市政情報交換会の様子

◆ 秋高連

秋高連(あきこうれん/在京秋田県高等学校同窓会連合会)は、出身校の垣根を越えて、をスローガンに、秋田県高等学校の在京首都圏45の同窓会で構成されている組織です。

毎年秋田県知事等の来賓をお招きして行われる“秋高連フェスタ”を軸に、ゴルフコンペ、秋田ふるさと訪問・母校訪問(本年はは県北)、ミニ交流ハイキングなどの活動を行っています。また、秋田ふるさと応援団とのネットワークによる首都圏で開催される全国大会出場の秋田県勢の応援等の活動も積極的に行っています。

本年、例年別々に開催されていた秋高連総会と“秋高連フェスタ”を今後同日開催していくことが決まり、本年中のフェスタの

開催は見送られることとなりましたが、来年5月には、総会と一体となった新しい形でのフェスタが開催されることとなります。

秋高連へは当会から大野省治(S42卒)が顧問として、武内暁(S42卒)が副幹事長として運営に参加しています。



平成28年度 秋高連フェスタにて

※ けやき会及び秋高連の諸行事等については当会ホームページにて随時ご案内しています。参加ご希望の方はホームページをご確認の上、当会事務局までご連絡ください。

同窓会本部事務局だより

4月9日に、県知事と7市2町の首長選挙、県議の2つの選挙区で補欠選挙がありました。知事選では、同窓の立候補者はおらず、佐竹敬久氏(角館高校卒)が3選を果たしています。

市長選挙、県議の補欠選挙には、同窓生も立候補し当選を果たしました。同窓関係では、男鹿市長に菅原広二氏(昭和45年卒)が初当選、由利本荘市長に長谷部誠氏(昭和44年卒)が無競争で再選しました。

また、県議の補欠選挙では、男鹿市選挙区で、杉本俊比古氏(昭和45年卒)が当選しております。

首長は、五城目町長の渡辺彦兵衛氏(昭和40年卒)、

本部事務局長 佐藤 英明 S46卒

井川町長の斎藤多聞氏(平成12年卒)とあわせ4人が、県議会は、田口聡氏(昭和49年卒)と北林丈正氏(昭和54年卒)とあわせ3人が同窓県議となります。

なお、国会議員は、法務大臣を務めている衆議院議員の金田勝年氏(昭和43年)、参議院議員の石井浩郎氏(昭和58年卒)と中泉松司氏(平成10年卒)の3名です。

他に市町村議会でも多くの同窓生が議員を務めています。

秋田県内分のみ紹介しましたが、他県で活躍している同窓首長・議員も、たくさんおります。先日、今期での引退表明をした奥山恵美子仙台市長もその一人です。

幹事長だより

この「天上はるかに」が皆さんの手元に届くころはゴールデンウイーク前後のことと思います。1年のうち一番希望が膨らむ時期です。新年度が始まりランドセルを背負って登校する小学一年生、見ているだけで目を細めてしまいます。中学生になった人、秋田高校に晴れて入学した人、大学生になった人、社会人になった人、それぞれ新たな人生の始まりです。素晴らしい人生を歩んでもらいたいものです。

東京同窓会幹事長 鎌田 進 S47卒

若い頃は前だけを向いていたのですが、あと残された年数を数えてしまう時があります。それではいけない、と自分に言い聞かせて頑張っています。

さて、総会では日本を代表する企業「新日鐵住金」の代表取締役社長である「進藤孝生さん」(43年卒)を迎えます。友人・知人をお誘いの上ご出席ください。お待ちしております。



保戸野方面から母校と太平山を望む 2017.3.1撮影

◆平成28年度/ご寄付者

平成28年4月1日～平成29年3月31日

東京同窓会へのご寄付を頂き大変ありがとうございます。
ご寄付いただいた方々の一覧を掲載して御礼申し上げます。

秋山 文平	中崎 致知	渡邊 徹
三矢 慶三	佐々木 博章	東海林 豊
大槻 幸一郎	網于 博文	高橋 裕次郎
大本 香津子	伊勢 許吾	穂積 文孝
桑名 斉	緑川 稔秀	柴田 興明
五代儀 俊悦	諸橋 公喜	(順不同)
鎌田 進	大野 省治	
楢岡 孝武	柴田 紀彦	
小玉 保治	小泉 忠一	
神崎 泰雄	藤川 長敏	
橋本 五郎	町田 睿	

◆平成28年度/会費納入者一覧

平成28年11月1日～平成29年3月31日 現在

昭和18年 高橋 郁夫	昭和34年 小沢 晁民	昭和40年 加藤 弘次	昭和47年 三澤 英一郎
昭和19年 宮川 豊	昭和35年 小泉 忠一	昭和41年 大槻 幸一郎	昭和48年 石川 俊明
昭和21年 加藤 日出男	昭和35年 吹浦 忠正	昭和41年 湊 亮策	昭和48年 東海林 豊
昭和25年 神 泰雄	昭和36年 岩堀 泰雄	昭和42年 大野 省治	昭和50年 柴田 興明
昭和26年 戸澤 弘明	昭和36年 柏木 征彦	昭和42年 佐藤 春美	昭和51年 那波 宗彦
昭和29年 白滝 一紀	昭和36年 小松 徳儀	昭和42年 吉村 和就	昭和54年 小玉 正志
昭和30年 秋山 文平	昭和36年 船木 茂	昭和43年 佐々木 博和	昭和55年 那波 祐子
昭和30年 大坂 弘二	昭和38年 加賀谷 久	昭和43年 松尾 正	昭和60年 西尾 薫
昭和30年 薄田 耕二	昭和38年 東海林 晃	昭和44年 石井 雅範	昭和60年 原 祥子
昭和31年 伊勢 諒吾	昭和38年 武田 義之	昭和44年 老松 秀明	平成08年 佐々木 千尋
昭和31年 大本 香津子	昭和38年 山方 三郎	昭和44年 高橋 裕次郎	平成12年 榎原 亙
昭和31年 柿崎 正	昭和38年 湯澤 邦彦	昭和44年 前田 俊子	平成14年 塩野 葵
昭和31年 原田 善治	昭和39年 阿部 和夫	昭和46年 大門 淳	
昭和31年 渡邊 徹	昭和39年 阿部 信泰	昭和46年 藤川 長敏	
昭和34年 荒川 紀義	昭和40年 岡本 宣子	昭和47年 加賀谷 博史	
	昭和40年 小沼 武敏	昭和47年 柴田 紀彦	

会費納入のお願い

本会の運営は、会員の皆さんからの会費によって支えられております。毎年度の会費の納入をよろしくお願い致します。
このページには本年度の会費納入者を掲載しております。
会費が未納の方は、本会報同封の郵便振込用紙にて、年会費3,000円のお振込みをお願い致します。
郵便局の口座番号は次のとおりです。

00150-0-353596
「秋田高校東京同窓会」

ご協力に感謝いたします